

第三者評価調査者養成研修カリキュラム

区分	研修課目	目的	内 容	形態・ 時間数
基礎的 研修 課程 Ⅰ	1. 第三者評価の概要 及び評価調査者の 役割	第三者評価事業の理念 や基本的な考え方を理 解する。 また、評価調査者とし て守るべき倫理や求め られる姿勢を理解す る。	第三者評価事業について、その必要性 や行政監査との違い等について講義す るとともに、福祉制度の動向について 解説を行う。 また、評価調査者として守るべき倫理 や、求められる評価調査者の役割につ いて講義を行う。	講義・ 1時間 30分
	2. 第三者評価基準の 理解と判断のポイ ント	第三者評価基準の考え 方を理解するとともに 実際の第三者評価方法 を習得する。	第三者評価基準の各項目中の留意点や 着眼点について、その内容の捉え方や 基準策定の意図等について講義を行う。 また、実際の第三者評価における判断 のポイントについても講義により習得 する。	講義・ 4時間
基礎的 研修 課程 Ⅱ	3. 第三者評価基準の 実施方法 (評価の事務フロー と訪問時の注意)	第三者評価の事務の流 れを理解するとともに 実際の施設訪問時の評 価方法を学ぶ。 また、利用者調査の位 置付けを理解する。	第三者評価事務の流れを理解し、訪問 調査における注意点について学ぶ。 また、利用者調査の位置付けや意義、 その結果の取扱い、さらには実際の利 用者調査の方法について講義を行う。	講義・ 2時間
演 習	4. 書面（事前）審査 の着眼点	書面（事前）審査の目 的や具体的な方法を理 解・習得する。	書面（事前）審査の必要性・目的、ね らいについて解説を行うとともに、実 際の方法についてグループごとに「事 例研究」を実施する。	講義 及び 演習 3時間
	5. 訪問調査の着眼点	訪問調査における各評 価喜寿運の判定方法及 びその着眼点を理解す る。	訪問調査における第三者評価基準の評 価判定方法、着眼点についてグループ により課題演習、事例検討を行う。	演習・ 4時間
実 習	6. 実習Ⅰ	実際に施設（事業所） を訪問、調査を行うこ とによって、具体的な 第三者評価の方法・技 術を習得する。	「協力施設（事業所）」を訪問、実際 に調査を行うことにより、インタビュー 技術等について実習を行うとともに 、訪問調査時の留意事項を学ぶ。	実習・ 7時間
	7. 実習Ⅱ	実習Ⅰの内容を受けて 第三者評価結果のとり まとめについて具体的 な手法を習得する。	訪問調査の結果に基づいて評価調査者 間で合議を行い、最終的な第三者評価 結果をとりまとめるとともに、報告書 の作成について実習により実際の技術 を学ぶ。	実習・ 2時間 30分
総 括	8. まとめ	実習の成果に基づいて 評価調査者として求め られる技術や態度等につ いてあらためて理解 を深める。	各分科会にてとりまとめた実習の成果 を発表し、講師から講評を行う。 とくに、とりまとめ等に対する問題点 や課題、書面調査・訪問調査を実施す る上での留意事項をあらためて整理す る。	全体会 1時間 30分